

安芸市福祉事務所  
 所長 山崎美佳様

安芸市立安芸おひさま保育  
 所長 西岡美砂



## 令和2年度安芸おひさま保育所園評価報告書

### 1. 保育所における自己評価の記録

月	自己評価
4月	○園経営計画の作成 ○本年度の重点目標の設定 ○園評価項目・指標の設定 ○職員への園経営計画・園評価計画の説明と共通理解
6月	○保護者への園経営計画・園評価計画のお知らせ
8月	○中間評価の実施（職員の自己評価・園の自己評価）
9月	○設置者への中間報告、改善策の検討
11月	○保護者へのアンケート実施
1月	○保護者アンケート集計・分析 ○最終評価（職員の自己評価・園の自己評価）
2月	○保護者、設置者への報告、改善策の検討

### 2. 評価結果について

#### 〈成果〉

- ① 保育・教育活動の充実では、体を使った遊びは毎日の大切な活動の一つと位置付けて活動しており、子どもが保育者と一緒に楽しんでいる姿が見られた。また、記録をもとに保育の振り返りを行うことで子どもの理解につながり保育の見直しにもつながった。
- ② 職員の育成・資質向上や運営では、研修に積極的に参加し研修内容を保育に生かしている。親育ち支援研修で学び、保護者から信頼される保育者の姿を考えながら対応している。
- ③ 地域に開かれた園づくりでは、保護者と子どもを中心にした話をする中で信頼関係もでき、保護者からの意見を参考にして保育に生かしている。行事や交流では新型コロナウイルスの関係で、できないこともあったが、工夫をしながら取り組むことができ成果も見られた。

#### 〈課題・主な改善策〉

- ① 室内や戸外で体を使った遊びを十分にし、今後も体を使った遊びの楽しさを伝えていきたい。新型コロナウイルスや気候、児童数の関係等からスペースの配分や遊びの工夫が必要だが、今後も子どもの豊かな心と丈夫な体を育てる活動を充実させていきたい。
- ② 様々な研修や日々の実践を通して、保育者としての資質向上につなげている。保護者から信頼され相談をしやすい保育者の姿を各自が模索するとともに、保育所に相談しやすい環境、雰囲気をつくっていききたい。
- ③ 保護者アンケートに寄せられた保育所や保育者に対しての指摘や要望については、真摯に受け止め改善に向けて取り組んでいきたい。

経営の柱	今年度の重点目標	評価項目	評価指標と評価結果				分析・考察
			取組指標	結果	成果指標	結果	
☆ 保育教育活動の充実	身近な環境と関わる中で、豊かな心と丈夫な身体を育てる	〔指導内容・方法〕 体を使った遊びを十分に にする	4 保育者も一緒に遊びながら楽しさを共有したり伝えたりする。	3.8	4 室内や戸外で進んで体を使った遊びをしようとする子ども 90%以上	3.6	毎日の活動の中で体を使った遊びに取り組んできた。年齢によって遊びの内容は違いますがそれぞれの年齢の成長過程や個々の育ちを大事にしながら、保育者も一緒に遊び楽しさを共有できるようにしてきた。子どもの姿からも、体を使った遊びを楽しんでいる様子が見られる。遊ぶスペースが限られる中、天候や気温、新型コロナウイルス等による制限もあり、各クラスの振り分けや遊びの工夫をしながら行った。
		3 子どもが自ら関われるような環境の工夫をする。	3 60%以上				
2 成長や季節を考慮した遊びを指導計画の中に位置づける	2 50%以上						
1 体を使った遊びを意識して取り入れる	1 50%未満						
		〔指導計画〕 保育の記録と振り返り	4 記録をもとに職員会などで報告・情報提供し、保育に生かす	3.8	4 振り返りと記録ができ、保育に生かした職員 90%以上	3.4	子どもの興味関心や生活、友達や保育者との関係等を確認し振り返ることで、職員会での情報共有が円滑にでき、保育の組み立てを考えることにつながっている。振り返りや記録を取る時間を確保することが難しい状況があり、時間を作るのが課題になった。
	3 記録の取り方を工夫する	3 75%以上					
	2 気が付いたことを各自が記録する	2 50%以上					
	1 振り返りや記録をとる時間を確保する	1 50%未満					
◆ 職員の育成・資質向上や運営	共通課題に向かう職員の協力体制づくり	〔園務分掌〕 園務分掌とその内容を する	4 担当した業務を責任を持って遂行するとともに、新たなアイデアで改善や提言をする	2.8	4 園運営上の課題解決に向け、園務分掌等の取り組みに積極的に参画するようになった	2.6	担当した業務について、役割を自覚して当たることができていた。経験年数の少ない職員については相談して共に考える環境をつくっているが、自分への評価が低い者もあり、業務の内容が理解できる一貫をつくるとともに、内容や評価の捉え方を話し合った。
			3 担当した業務を責任を持って企画立案する		3 園の運営について自分のこととして常に考え、職員会議等においても建設的な発言ができるようになった		
	2 担当した業務について振り返り、不十分な点を改善したり職員会議で報告したりする	2 担当した業務について振り返り、不十分な点を改善したり職員会議で報告したりする					
	1 担当した業務について理解し遂行する	1 自分の役割を自覚できるようになった					
		〔研修〕 研修内容を共有し主体的に取り組む	4 月2回以上	2.8	4 研修内容を話し合い、保育の実践に生かした 75%以上	3.3	新型コロナウイルス感染症の関係でオンデマンド等に形式が変更になった研修もあったが、内容を職員会で報告しあい全体での学習ができていた。また、園内研修やブロック研で学んだことを全体で学習しあう事が、自身の保育を振り返り課題を見つめる機会になっており、実践につながった。
		3 月1回程度	3 65%以上				
		2 2ヶ月に1回程度	2 50%以上				
		1 3ヶ月に1回程度	1 50%未満				
◎ 地域に開かれた園づくり	保護者や地域から信頼される保育所づくり	〔保護者との連携〕 子どもの育ちや保育への理解を深める	4 必要に応じて家庭訪問や面談を行う	3.3	4 子育ての悩みを相談してくれる保護者 75%以上	3.3	登降所時に保育での子どもの様子を丁寧に伝えながら、家庭での様子も含め子どもを中心にした話をする事で、保護者との信頼関係がつけられるように心掛けてきた。園便り・クラス便り・懇談会・行事等を通して保護者の考えを聞き参考にしていく。また、親子支援の研修を通して、子ども理解や保護者への対応を学び、保護者から信頼され悩みを相談しやすい保育者の姿を各自が模索するとともに、一人で抱え込まないように職場の相談しやすい環境づくりを心掛けた。
			3 子どもの様子や子育てについて、連携・共有できる機会を設ける		3 50%以上		
	2 保育の情報をわかりやすく発信する(園・クラス便り)	2 35%以上					
	1 登降所時に子どもを中心とした話をする	1 35%未満					
		〔小学校との連携〕 計画的に連携し相互理解する	4 保小連絡会や支援ミーティング体験学習等を通して情報交換する	3	4 課題を共有しスムーズな接続につなげることができた	3	行事の交流が新型コロナウイルス感染症の関係で、できないものもあったが、小学校から校長や教職員が来所してくれ、年長児の姿を見てもう機会をつくることができた。連絡会や体験入学、支援ミーティングは行うことができ、子どもの様子や保育で大事にしている事について情報交換をした。接続に関連した学習は参加した保育者から報告を受け、各年齢での保育の大切さを全体で考える機会となった。
		3 職員間で交流し情報交換する	3 園の課題や子どもの育ちを振り返り発達を見通した保育の実施につなげた				
		2 研修を通して理解をする	2 接続に関連した学習を通して理解につなげた				
		1 行事を通して交流する	1 年長児が小学校を身近に感じることができた				